

【小学校 算数】

全国学力・学習状況調査 今治市の各教科調査結果の特徴

1 平均正答率等について

本市の小学校算数の平均正答率は63%で、全国の平均正答率と比べ▼0.4%、県の平均正答率と比べ▼1.0%下回っています。「図形」、「変化と関係」、「データの活用」の3領域において、全国及び県平均を下回りました。「数と計算」領域は、県の平均正答率を▼1.5%下回りましたが、全国と同じ正答率となりました。「知識・技能」の観点に関しては、9問中6問において全国の平均正答率を上回りました。

2 特徴が見られた問題

④(1)では、本市の平均正答率(75.0%)が全国の平均正答率(70.1%)と比べ△4.9%上回り、除数が小数である場合の計算ができる児童が多いと考えられます。

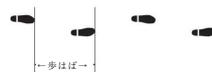
③(3)では、本市の平均正答率(31.3%)が全国の平均正答率(36.5%)と比べて、▼5.2%下回り、図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えることを苦手とする児童が多いと考えられます。解答類型を分析すると、円周率の3.14を用いて立式している児童が多く、円周率について正しく理解するとともに、「ぴったり」という言葉から、球の直径と立方体の一辺の関係について気が付くことができている児童が多いと考えられます。これからの学習では、観察や構成などの活動を通じて、図形間の関係に着目して体積の求め方を考えることができるようになる必要があります。

②(1)では、本市の平均正答率(53.3%)が全国の平均正答率(56.9%)と比べて、▼3.6%下回っています。解答類型を分析すると、正しい答えを導くことはできていますが、数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、求め方を式や言葉を用いて説明することが苦手な児童が多いと考えられます。これからの学習では、計算の仕方や計算の結果について考察し、自分の考えを自分の言葉で伝える場を確保する必要があります。

3 これからの学習に当たって

「図形」や「変化と関係」「データの活用」の3領域で全国及び県の平均正答率を下回りました。「図形」の領域では、▼1.7%下回りましたが、昨年度と比べるとその差は小さくなっています。今後も、実際に図形を操作したりICT機器を活用して図形を捉えたりする学習等を通して、図形について豊かな感覚を身に付けていく必要があります。「データの活用」では、目的に応じて必要なデータを収集し分類整理したり、問題を解決するために、条件や情報を解釈し、数学的に表現し、判断したりすることができる力を付けていく必要があります。そのために、データを言葉と数を使って表現する場面を確保するなど、授業改善に努める必要があります。

- ④ あいなさんたちは、時間や速さなどについて考えています。
(1) あいなさんは、家から学校までの歩はばを求めます。家から学校までの道のりは540mです。あいなさんの歩はばを0.6mとします。

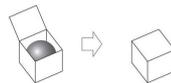


家から学校までの歩数は $540 \div 0.6$ の式で求めることができます。
 $540 \div 0.6$ を計算しましょう。

- ③ (3) 直径22cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。

ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

- ② (1) (略)

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、 $350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方についてまとめました。

このとき、 350×16 のかける数「16」が、 350×2 のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。

上の㊦に入る数に着目すると、 350×16 の積①は、どのように求めることができますか。㊦に入る数に着目したときの①の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、①に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。また、①に入る数も書きましょう。

